

## 【奨励賞】

団体名	矢板高校（総合選択制専門高校）の特性を活かした地域連携による矢板地区活性化プロジェクト
活動の内容（概要）	総合選択制専門高校の特性を活かし、矢板地区活性化のための矢板市議会との意見交換や、農業・工業・食物・福祉各分野の特色を活かした矢高デイサービス、市制施行60周年記念として矢板市商工会・企業と協働した矢高新レトルトカレーの開発などを実践し、地域産業の担い手育成に取り組んでいる。

### 受賞理由

- 総合選択制専門高校の強みに福祉という横串を通した取組は見事。スクールブランド製品を完成させたことで生徒たちの自信にもつながったのではないかな。
- 定期的な発表会や市議会でのプレゼンなど意義や評価などが大変分かりやすく、生徒の次の一歩につながる取組。
- 専門高校の教科と直結した地域貢献・地域での学びが展開され、それを支える地域の多彩な産業界がある。市民性を高めつつ、まちの担い手となっていくプロセスを地域総がかりで作っていることを高く評価。
- コンセプトが明確で、地域ブランディングへの取組の効果も見受けられる。イベントもシンボリックで、地域関係者にも理解しやすい取組である。キャリア教育でありながら地域活性化促進の効果もある。
- 総合選択制の専門高校の特質を活かした優れた取組であり、今後も是非継続していただきたい。
- 高校生の人材育成を中心に、地域企業、商工会、行政等が連携を深め、地域を担う人材の育成に努めている。地域各企業・事業所等の特性を活かしつつ、プログラムを構成し、小回りの効く内容や組織になっている。また、プログラム内容についても、高校生の発達段階に適したものになっており、高校の学科の特性を活かしつつ、活動意欲の高まる実践となっている。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

栃木県立矢板高等学校、矢板市立西小学校、矢板市立矢板中学校、栃木県教育委員会

【行政や地域・社会、産業界等】

矢板市商工会、矢板市役所、塩谷町役場、矢板市議会、矢板市社会福祉協議会、塩谷地区農業教育連絡協議会（塩谷南那須地区農業士会、先進農業者、塩谷南那須農業振興事務所、矢板市農業公社、JAしおのやで構成）、矢板市観光協会、矢板まちづくり研究所、矢板土木事務所、宮島醤油株式会社、大進電気工事株式会社

### 活動開始の経緯

【活動開始時期】平成27年～ 【継続年数】4年

矢板高校では、以前から地域貢献活動等を中心に、総合選択制専門高校の特性を活かした取組をしていたが、平成27年5月に「福祉のこころ推進校」に認定され、矢板市社会福祉協議会と連携し、地域福祉の学びを深めることを目的とした「福祉のこころ育成事業」が本格化し平成27年11月「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞した。また、平成28年には矢板市商工会と連携・支援協

定の締結や、塩谷地区農業教育連絡協議会の発足など、地域に貢献できる人材の育成や定住促進を図り、現在、地域活性化につながる、地域全体でのキャリア教育を実践している。

### 「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

矢板高校の特色を活かした地域連携は、矢板市行政、矢板市商工会、矢板市社会福祉協議会、農業教育連絡協議会、産業界と幅広く、「地域活性化を図る」をコンセプトに以下のような協力・協働によりキャリア教育を展開している。

・矢板市商工会が主催する県内最大級の矢板軽トラ市に、矢板高校の特色ある5学科（農業経営科、機械科、電子科、栄養食物科、社会福祉科）が参加して、矢板軽トラ市をサポートする他、平成30年11月の矢板市制施行60周年記念として、栄養食物科の生徒自らがレシピを考案して矢高レトルトカレーを宮島醤油株式会社の協力で開発している。

・矢板市社会福祉協議会と協力・協働し、年3回程度、地域の福祉施設から数十名を「矢高デイサービス」として矢板高校にお招きをしている。農業経営科では、草花の寄せ植えや山羊とのふれあい体験、工業（機械科・電子科）では、高齢者や障害者のために仮設スロープの製作設置や車イスのメンテナンス、LED電光掲示板の設置、栄養食物科では、高齢者、障害者に合わせた自作料理の提供、社会福祉科では、高齢者、障害者の方への介助と案内をしている。

・農業教育連絡協議会、矢板土木事務所と連携し、近隣の西小学校と田植え体験、稲刈り体験、梁目川探検（命の水を考えよう）、リンゴ狩り体験を毎年実施している。今年度は、西小学校の育てた稲を収穫し「全国農業お米甲子園」へエントリーした。



＜矢高デイサービスでの草花の寄せ植えの様子＞

### 「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

矢板市商工会は、特産品として知られ県内唯一の生産高・出荷高をほこる「りんご」を使用したカレーによる矢板市活性化の街おこし事業を、平成15年度より進めてきており、平成20年には矢板高校生の栄養食物科が考案した「あっぶるカレー」が一斉発売となった。市内のスーパーや道の駅で販売しているが、発売から10年となり評価・分析を行い、時代にマッチした味付けや、地元の特産品をさらに活用した地域活性化に結びつける商品開発をすることにした。平成29年12月には、新メニュー開発支援講習会を、カレー研究家スパイシー丸山さん（カレーマイスター養成講座講師）と電撃ネットワークのギョウゾウ氏（やいた応援大使）を矢板高校に招き、市商工会員や市内飲食店経営者ら約35人が参加して、老若男女に係わらず好まれる今後の新たなカレー開発考案の参考とし、平成30年11月の矢板市制施行60周年に合わせ矢高レトルトカレーを発売した。このように、継続的なカレー開発を通して地域の活性化に繋げ、長期的なキャリア教育を展開している。

また、矢板高校の以前から継続している幅広い地域連携事業を、さらに推進し地域で必要とされる人材育成につなげるために、県教育委員会を始め矢板市長、塩谷町長、矢板市商工会、地元企業の代表者、学校評議員の方々をお招きして、「地域連携成果発表会」を平成30年2月に本校体育館にて開催した。多くの方々から、今後の課題や地域貢献ができる人材育成についての御意見をいただき、今後、生徒の主体的・協働的な学習を促し、生徒たちが主体的に学び続ける力や課題を解決する力、他者や自然との共生する力を身につけさせ、専門学習に対するより一層の意識高揚を図ることができた。PDCAのマネジメントサイクルを今後、長期的に実施していくためにも、発表会を2～3年に1度開催予定である。

### 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

市議会が高校生と意見を交わし、若い世代がまちづくりを考え、矢板市を活性化するために矢板市議会議場にて平成30年5月28日、矢板市議会との意見交換会を開催した。当日、前半は、4つのグループに分かれて議員の方とのグループディスカッションを行い、後半は、議場にて、まとめた内容を全員で発表する形となった。発表内容は、道の駅の新しいメニュー開発、駅前のクリスマスイルミネーション、小学校以外の他団体との交流事業、高校生も家族連れの方々も障害をお持ちの方も誰でも楽しめるカフェをつくり、介護食も楽しめる美味しいメニューの開発など、



＜矢板市議会との意見交換会の様子＞

矢板市の将来のまちづくりのアイデアがプレゼンされた。高校生からユニークな熱い意見が出され、矢板市議会も今後、様々な団体と連携し、矢板市が活性化し、未来の新しい街づくりに活かしていただき、効果的なキャリア教育に協働することになっている。また、11月19日には、矢板市長が、自ら高校へ出向いて頂き、直に高校生と意見交換を行った。まちづくりを考える若い世代のアイデアは、好評を得ており毎年開催し、地域活性化に繋げていきたい考えである。

また、効果的なキャリア教育として、西小学校との交流事業が挙げられる。塩谷地区農業教育連絡協議会がサポートしていただき、小学生と高校生が協働して、矢板高校の水田で、田植えから収穫、脱穀、調理し試食までの年間通した一連の食育体験を実施している。これら食と農のつながりを感じる食農教育を通して、小学生と高校生とも食に関する知識や、自然の大切さを学ぶキャリア教育の実践に取り組んでいる。

### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

地域活性化プロジェクトをより地域社会全体へ発展させるため、矢板高校の電子科と社会福祉科の合同チームが、矢高ブランドとして、オリジナル福祉機器の製作と販売に取り組んでいる。内容は、平成28年度に高校生学力向上総合支援事業スタディ・フロンティア推進事業アクティブスクールプランの一環で製作した介護用スプーンの改良型と、新たに企画、開発した視覚障害者向け段差検知白杖の設計、製作、販売を行うものです。これは、電子科と社会福祉科という大学科を横断した本校ならではの取組で、高い評価を得て、起業家精神にあふれる人材育成をめざす「起業家精神育成事業」実施校（栃木県教育委員会が主催）に指定されました。また、日本政策金融公庫が主催する高校生のビジネスプランを競い起業教育の推進を目的とする「高校生ビジネスプラン・グランプリ」では、本校から「矢高ブランドの確立（オリジナル福祉機器の製作と販売）」としてエントリーし、全国合計3,247件の中から全国ベスト100に選出され、平成29年12月19日に第5回「想像力、無限大∞高校生ビジネスプラン」北関東信越地区合同表彰式に出席した。介護用スプーン、視覚障害者向け段差検知白杖の販売までは、コスト面で厳しいが、今後、地域でのレンタルなど幅広い使用方法を考え、地域活性化の発展に繋げていきたい。

また、今年度から「未来の職業人育成事業」を新たにスタートし、矢板高校電子科の生徒が中心となり、矢板中学校、矢板市役所、矢板まちづくり研究所、大進電気工事（株）の方々と協働し、キャリア教育を目的とした「ものづくり」を行う。今回、5種類の雪の結晶のイルミネーションを制作しJR矢板駅前広場にて11月30日～平成31年1月13日まで点灯している。

### **学校現場の評価・感想・コメント**

学校・地域が、それぞれの教育機能を生かして責任を持って取り組む地域活性化プロジェクトにより、生徒たちが主体的に学び続ける力や課題を解決する力、他者や自然との共生する力を身につけられ、キャリア教育の理念に沿った活動となっている。生徒たちは、学校内だけの人間関係に留まらず、学校外の人との交流の場が増えることにより、人とのコミュニケーションや他人への配慮、言葉遣いなどを学ぶことができる。また、地域の方からの意見を取り入れたり、御指導いただくことで、さらなる学習の深化や、人格の成長につながっている。

### **関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど**

平成 30 年 2 月に開催した地域連携成果発表会に出席された産業・地域団体の方から次のような意見・評価を頂いた。「特色ある学校づくりの中心になっている地域連携は、学校全体の取り組みとして地域に深く浸透している。」「初めて試みとして地域連携成果発表会が開催され、生徒のすばらしい発表を見て感動した。今後も引き続きこのような連携を続け、地域に貢献して欲しい。」「起業家精神育成事業に指定された、電子科と社会福祉科と連携して取り組んだ介護用スプーン、視覚障害者向けの段差検知白杖は、総合選択制専門高校としての強みであり、今後もこのような連携を継続し、地域に貢献してほしい。」